

4 - 6 伊豆半島におけるラドン観測 (XVII)

Radon Observation in the Izu Peninsula (XVII)

東京大学大学院理学系研究科

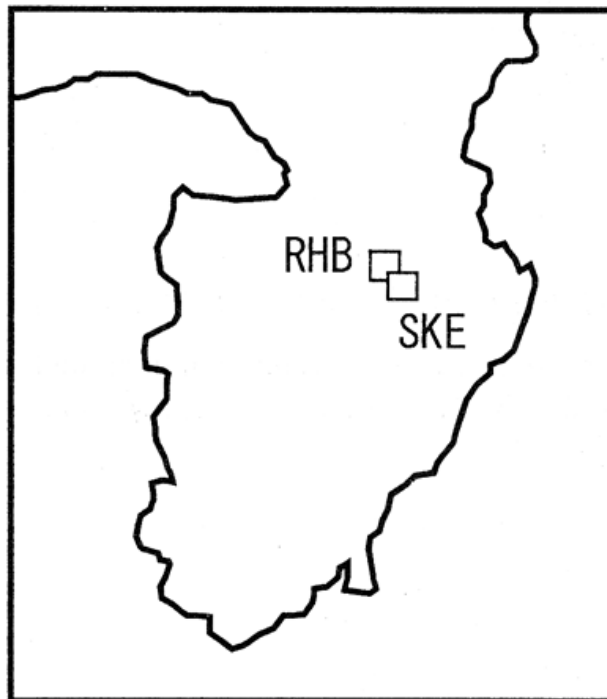
Graduate School of Science, The University of Tokyo

前報¹⁾ に引き続き、伊豆半島における地下水のラドン濃度の連続観測結果 (1998 年 11 月 ~ 2000 年 5 月) を報告する。

観測点は、第 1 図に示す中伊豆第 1 (SKE)、中伊豆第 2 (RHB) の 2 地点である。第 2 図は、各観測点における、1 時間毎のラドン濃度 (積算値) の 24 点移動平均の変動で、縦軸はこの期間の変動を表している。また、各図の右上には、1996 年以降のラドン濃度の観測値を示してある。SKE のラドン濃度は観測期間中ほぼ一定である。RHB では、例年夏季に比べて冬季のラドン濃度は低く、変動も大きい。

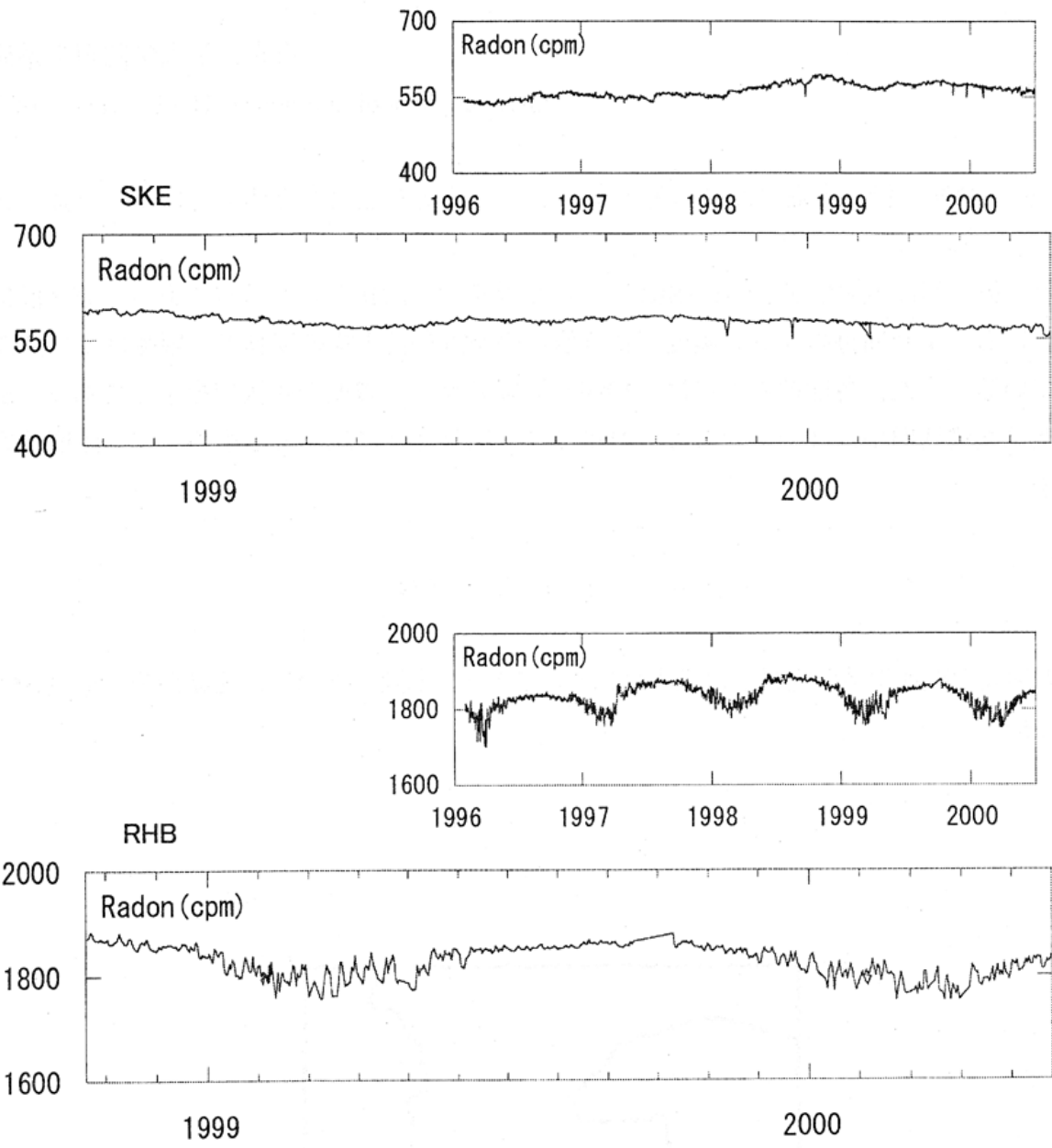
参 考 文 献

1) 東京大学大学院理学系研究科: 伊豆半島におけるラドン観測 (XVI), 連絡会報, 61 (1999), 268-269 .



第 1 図 伊豆半島の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the Izu Peninsula.



第 2 図 SKE (中伊豆第 1) RHB (中伊豆第 2) における地下水のラドン濃度変化

Fig.2 Temporal variations in the radon concentration in ground water at SKE(Nakaizu-1), and RHB(Nakaizu-2). The data are 24-hour moving average values.